

地域づくりレポート < 04 - 4月度レポート >

テーマ：「道路」

報告者：黒沼貞志

昨年度2月に続いて「道路」のレポートです。

2月は特に「雪」に焦点を当てての記述でしたが、今回は2月度を除いたこれまでの3回の「道路」に関する拙稿を思い出しつつ全般的な視点から記述致します。

今回は最近話題になっている高速道路や一般道路の「事後評価」について考えてみました。

貴省のHPにアクセスして過去に建設した道路についての「事後評価」にアプローチ致しました。

未了部分も有りますがその検証が実施されたところについては、かなり詳細な評価データが提供されておりました。

他県の道路に関するデータではイメージが湧かないため、山形県を対象を絞って見ましたが、残念ながらH13年の1件(R112)、H14年の2件の項目が有りますが「事後評価」のデータにはアクセスできませんでした(小職のアプローチ方法の問題かもしれませんが・・・)。

他県の道路の事後評価レポートを概観しての印象は、我儘かもしれませんがそのボリュームの多さに戸惑いました。

出来ましたら「要旨版」「詳細版」のデータというようにアクセス者のニーズに配慮願えますと有難いと思いました。

これだけのデータを整理・構成するのでからちょっとした配慮(←)ではないでしょうか？

このような纏め方は企業ではよく使われる手法です(エグゼクティブ・サマリー & メインレポートなどのように)。

道路に限らず貴省が扱うインフラの建設にはその企画・計画から竣工まで長期間を要します。

その間、ニーズ・社会環境・経済情勢など大きく変化しますので当初の計画と中間地点そして竣工した後の事後評価には大きな差異が生じることは必定と思われれます。

変わることは「是」としても、その内容について「アカウンタビリティ」の視点から、特に山形県内の道路の「事後評価」を是非拝見したいと思った次第です。

例えば、「米沢南陽道路」を時間が不足している時などに何度か使用したことがあります。

いつも空いていて(空きすぎと言ったら言い過ぎでしょうか?) 当方の目的達成には役立つのですが・・・、一般的評価基準の「採算性」という観点からはどうなのかと走りながら感じています。

今回は小職の見てみたいデータに触れる事が出来ず、「事後評価」に対する定性的な期待の記述となってしまいました。

最近、県内でも多くの高速道路、一般道路が建設されておりますがそれらの「事後評価」がありましたらお知らせ戴けますと有り難いです。

以上